

1 審議会名	上田左岸地域協議会
2 日時	令和4年9月15日 午後1時30分から午後3時00分まで
3 会場	川西公民館 大ホール
4 出席者	赤堀委員、浅川委員、遠藤委員、小熊委員、倉島委員、小林委員、小山委員、田中委員、田村委員、西入委員、樋口委員、松田委員、宮坂委員、宮下委員、安江委員、山岸委員、和田委員
5 市側出席者	<p>【事務局】藤沢川西地域自治センター長、滝沢城南地域振興政策幹、間宮塩田地域自治センター長、大森川西地域振興政策幹、小宮山塩田地域振興政策幹、片山地域内分権推進担当係長、村山地域内分権推進担当主査、滝沢地域内分権推進担当主査、芳池地域内分権推進担当主事</p> <p>【交通政策課】竹内交通政策課長、市川交通政策担当係長、木角交通政策担当主事</p> <p>【上下水道局】堀内上下水道局長、関上水道課長、小井土上水道担当政策幹、若林施設整備係長、緑川経営管理課長、橋詰経営管理課長補佐兼経理担当係長</p> <p>【長野県企業局】上田水道管理事務所小林所長、上田水道管理事務所鷹野管理課長補佐兼施設係長、橋部水道事業課長補佐、加藤水道事業課長補佐</p>
6 公開・非公開	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和4年9月21日

協議事項等

次第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 協議事項

(1) 上田市の公共交通の課題と地域公共交通計画の策定について【交通政策課】

交通政策課から資料を基に説明

以下、質疑応答

(委員)別所線について、せっかく市民の熱い想いで鉄橋が復興したが、その後、定期的に利用する方の人数が伸びておらず落ち込んだままだが、一番の理由は何と考えるか。

(交通政策課)上田電鉄においても分析をしているところではあるが、1度自家用車での通勤・通学に戻ってしまい、便利さに慣れてしまうと、公共交通機関に再度戻ることはなかなか難しい。

QRコード決済の導入等によって利便性を高めるとともに、イベント時にQRコード決済利用者には無料で乗車いただくような取り組みも行っている。地道な取り組みを重ねていながら、輸送人員の回復に向けて取り組んでいきたい。

また、長野大学が公立法人化され県外から学生が多く入ってくることによって、大学の近くに住む学生が多くなったということも、別所線を使っていない要因ではないかと言われている。1人乗ることによって、年間のべ600回ほど利用される計算になる。沿線の大学や高校への通学状況によっても定期券利用が変わってくる。

(2) 上田・長野間における水道事業広域化の検討について【上水道課、経営管理課】

上水道課から資料を基に説明

以下、質疑応答

(委員)以前、市の上層部の方に水道で菅平のおいしい水を飲むことはできないか聞いたところ、それはできないという回答だったが、今はできるということか。

(上水道課)平成 18 年に市町村合併してから、真田地域の水を上田地域の方まで送るということで取り組んでいる経過がある。国道 144 号鳥居峠付近にあるつちや水源の水を今年度から真田地域の皆さんに送っており、将来的には右岸の神科・豊殿地域に送る計画がされている。この水源 100%の水を飲むことができるのは真田地域の方だけで、神科・豊殿地域の方は石舟浄水場の水を混ぜて送ることになる。上田左岸地域の皆様には送ることはできない。

(上水道課)補足で、上田地域の染屋浄水場の浄水方法は緩速ろ過方式である。塩田地域及び小泉・仁古田地区に供給する話は、統合した場合の一つの方策として説明させていただいた。このことは、県営水道と統合しないとできない形である。

(委員)水道管の老朽化を心配している。定期的に水道管を交換する状況なのか、破裂したところから対処する状況になっているのか。破裂したところから対処する状況なら、早めに統合して新しい水道管の埋設により、よりクリーンで安全な水が送られてくるのであれば統合には賛成である。

資料 8 ページのグラフを拝見したが、上田市は水源があるので伸び率が低いということであれば、統合することによって他市より優位な立場になれるのではないか。収益についてはどう考えているのか。

(上水道課)老朽化の状況については、13 ページの管路経年化率を参照いただきたい。上田市 12.1%、県営水道 8.9%となっている。管路経年化率は、法定耐用年数 40 年を経過した管路延長が総延長に占める割合、管路の更新については上田市 0.48%、県営水道 0.44%で、約 250 年に 1 回の更新である。管路の種類もさまざまだが、もうすぐ 100 年を超える管があることを考えると、とても更新が間に合っていない状況であり、経営的には厳しい。

資料 8 ページの上田市の料金の上がり具合について、他市より優位な立場という考え方でなく、全て同じ立場の中で検討を進めている。

(上水道課)補足で、基本的には上田市、千曲市、長野市のエリアと、県営水道のエリアで分かれているが、染屋浄水場で作った水を供給できるとすると塩田地域及び小泉・仁古田地区までである。統合という選択肢の中では、長野市まで含めたエリア全体の中で、人口が減少したことによって、施設を小さくしていかなければならない。統合すると国から補助金を受けられることもメリットである。上田市だけがメリットが少ないという考え方ではなく、エリア全体で取り組むことにより上田市もメリットを享受できるという考え方である。

(委員)厚労省の広域化の指針で、垂直型と水平型が出されている。垂直型だと施設、設備がつながっているもので、上田、長野の統合はつながっているものではないので、水平型だと考えてよいか。

そうなると、メリットの中で災害時の設備について記載があるが、将来的にはいろいろな設備をつなげていくということによいか。

(上水道課) 今回の上田、長野の統合は水平型である。垂直型は用水供給事業者が居て、水だけを浄水場で作り、下流側の水道事業者に売るといったもの。近隣では県企業局（県営水道）と松本、塩尻、山形村が垂直型である。我々はそれぞれが浄水場を持っていて、お客様にお届けするので水平型になる。

県営水道が送水している区域は上田地域から長野地域で、既に一本の水道管で配水している。これを二重化することによって、下流域の皆様にも安心が生まれる。

上田地域については、染屋浄水場の水を塩田地域及び小泉・仁古田地区の皆様にお送りすることにより、県営水道諏訪形浄水場の水に余剰ができ、それを長野市まで送ることにより、長野市の施設が閉鎖できるのではないかと。閉鎖した時に作らずに済んだお金を、上田地域を含む、地域の全員が享受できるという発想である。

(委員) 諏訪形の県営水道の近くに住んでおり、諏訪形自治会でも施設を見学したことがある。県営水道の水を塩田地域及び小泉・仁古田地区の一部に送っているが、この計画では染屋浄水場から送る工事をしているがなぜか。何か経営上問題があるのか。県営水道は千曲川から水を取っていて、その水量が今回の計画で変わるのか。地域の水を利用している皆さんに影響はないのか。

(上水道課) 工事内容としては染屋浄水場と県営水道諏訪形浄水場の連絡管を整備することによって、塩田地域及び小泉・仁古田地区に染屋浄水場の水を送ることができる。染屋浄水場と諏訪形浄水場の連絡管ができた場合、もし染屋浄水場で事故が起きた場合、諏訪形浄水場から染屋浄水場に水を送ることが可能ではないかと、ということも目論んでいる。

(委員) そもそも県営水道と、市町村の水道事業の違いは何か。

現在、県営水道、長野市、千曲市、坂城町、上田市で研究が始められているが、このエリアが今後拡大するということが研究の中では視野に入れているのか。

災害があった際のバックアップを考えた時に、広域よりもむしろ小さい単位の方が融通が利くのではないかと。災害時のこういった機構に関する考え方があればお聞きしたい。

(上水道課) 県営水道が水を配り始めたのは昭和 39 年からで、当時は塩田町、川西村の単位だった。塩田は水が不足している地域で、住宅が増え田んぼの水が足りなくなり苦勞していた。下流域の坂城町、更埴市、旧戸倉町・旧上山田町、旧篠ノ井市、旧川中島町の方も、当時水が無かったがそれぞれ独自に浄水場を作るのは非常にお金がかかるということで、県に陳情された。地域を助けることと、長野県の発展を考慮し県が個々のお宅の末端まで水道を整備してくれた地域である。このパターンは全国では東京都、千葉県、神奈川県、長野県の 4 つで大変珍しい。県営水道ができたことによって、塩田地域及び小泉・仁古田地区に住宅が増え、工場が誘致された。坂城町の工場地帯が発展したのも同様である。

本来、水道事業は市町村単位で行うため、県営水道が行うのは、特殊な形である。

エリアの拡大については、須坂市、青木村など周辺地域と、今後どのようになるかはこれからの課題となっている。現在は県営水道、長野市、千曲市、坂城町、上田市で研究を進めている状況である。

広域化について、人口減少の社会となると、現状での水道事業の継続は職員数の減少も視野に入れざるを得ず、組織を広域化せざるを得ないというイメージをしている。

(委員) 上田市だけで考えても管路が長く、交換も大変なことである。広域化することによって、補助金等も含めて運営しやすくなるという理解でよいか。

万が一事故が起きた場合に、今のように範囲の小さい方が対応しやすいのではないか。

広域化の場合のメリットについて資料を参照すると、千曲市、長野市はそれなりにメリットが大きいが、上田市はほとんどメリットがない。料金体系を統一した場合、人口が少ない千曲市は有利に進んでいくのかと思う。なぜ上田市はこんなに料金的なメリットが少ないのか。広域化するのであれば、皆が共通にメリットを感じたい。各地域が利益を得るようにしてもらいたい。

(上水道課)ご意見として聞かせていただく。ただ、料金体系については、上田市は安くしている分だけ、まだ延命をしていたという部分があるので、適切な時期に適切な工事や費用が必要になってくる。

料金体系のメリットが上田市は薄いという点については、全域的なところの中で検討する課題となる。

(会長)広域化した後も、長野市の浄水場を廃止するとするのではなく、有事の際に備えて何かあったら使えるようにしておくとうい。

(上水道課)危機管理については、全エリアからも同様にいろいろなご意見をいただいているため、それを踏まえて検討を進める。広域化が決定したというわけではなく、あくまでもシミュレーションの中で出たものを本日説明させていただいた。皆さんからご意見をいただく中で、最終的に判断させていただきたい。

(3) 調査研究について

上田左岸地域協議会活動(案)について、小山会長から説明

(4) その他

(委員)地域巡りをしてアンケートを行ったが、それはどうフィードバックされるのか。例えば担当課から回答があるのか。

(事務局)地域協議会として進めたいものがあればまとめていただきたい。文書で回答がほしいもの、担当課を呼んで説明を受けたいもの等、皆さんにまとめていただいたうえで進めていければよい。

(委員)アンケートについて、メールで送れるようにしてもらえるとありがたい。その場で書けることは限られるため、考える時間がほしい。

→メール対応を行う。

4 その他

次回の開催予定

日時 10月20日(木) 午後1時30分から

場所 塩田公民館 大ホール

5 開会